

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際純粋応用生物物理学連合
	英	International Union for Pure & Applied Biophysics (略称 IUPAB)
	団体 HP (URL)	<a href="http://iupab.org/">http://iupab.org/</a> (日本学術会議が加盟していることの記載 (有) ・ 無 )
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2020 年 IUPAB 大会 (IBC 2020) はブラジルリオデジャネイロで開催予定であったが、フォス・ド・イグアスに変更。大会ホームページが開設された。</li> <li>● 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020 年 10 月に予定されていた上記のブラジル大会は、2021 年 10 月に変更することが発表された。</li> <li>● 2018 年 12 月 4-6 日、オーストラリアメルボルンにてアジア生物物理学連合 ABA のシンポジウムが開催され、ABA 理事会も同時に開催された。ABA は、IUPAB 傘下のアジア・オセアニア領域の IUPAB 所属団体による連合体(IUPAB での投票権も有する)。</li> </ul>
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 超解像顕微鏡および電子顕微鏡イノベーション</li> <li>● 構成 or 合成的アプローチによる生体分子・分子システム・細胞システムに関する研究の進展</li> </ul>
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本生物物理学会は、長年 IUPAB 会長および理事を輩出している。現在も IUPAB 理事として野地が選出されており、これにより IUPAB における一定の存在感を示すとともに、世界の生物物理学分野における我が国の評価を高めることにもつながっている。</li> <li>● 上記に加え、IUPAB における日本人役員の存在により、2021 年ブラジル大会プログラムへの協力および 2023 年京都大会の開催決定およびその準備等、大会運営における様々な面においても、IUPAB 中枢部との密接な連携が可能となっている。</li> </ul>
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生物物理学研究における権威が集う場である IUPAB に加入することにより、際立ったレベルにある我が国の生物物理学研究およびその応用技術に関する情報をより積極的に世界に向けて発信することが可能になる。</li> <li>● IUPAB が有する独自のネットワークを通じ、物理および物理化学的な視点による生命科学的研究および、応用生物物理学研究による医学・薬学・農学への応用状況の情報収集を行うことができる。</li> </ul>

## 様式第 2 (第12条関係)

<p>その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Task Force On Education &amp; Capacity Building</b>：発展途上国（中南米およびアフリカ）における生物物理学の振興の補助（当該地域におけるサマースクールや、現地学会のサポート）</li> </ul>
--	---

### 2 今後の予定について（内規第 11 条 活動報告）

<p>総会、理事会の日本開催の予定について（招致等の予定も含め）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2021 年 IBC にて総会及び理事会を予定。会長及び理事の選出が予定される。</li> <li>● 2017 年のエジンバラ大会において、2023 年 IBC の日本誘致が成功した。2021 年のブラジル大会において IBC2023 のアナウンスを行い、同大会の参加者に向けてアピールすることを予定している。また、このための準備委員会を学会内に既に発足済みである。</li> <li>● ブラジル大会が 1 年延期され、2021 年開催となったことを受け、2023 年 6 月に開催予定であった京都大会も 2024 年に延期することを検討中。</li> </ul>
<p>日本人の役員立候補等の予定について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現理事の野地もしくは若手が立候補予定</li> </ul>
<p>現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>Task force Application of Biophysics</b> の活動</li> <li>● 日本生物物理学会（BSJ）の活動紹介働きかけ（この結果、IUPAB による『<i>Biophysical Review</i>』において BSJ の宮崎年会の活動紹介が企画、発行された <a href="https://link.springer.com/journal/12551/12/2">https://link.springer.com/journal/12551/12/2</a>）</li> </ul>

### 3 国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条 活動報告）

<p>総会・理事会・各種委員会等の状況（過去 5 年間及び今後予定されているもの）</p>	<p>総会開催状況</p>	<p>2017 年（開催地：エジンバラ、UK） 2014 年（開催地：北京、中国）</p>
	<p>理事会・役員会等開催状況</p>	<p>2017 年（開催地：エジンバラ、UK） 2014 年（開催地：北京、中国）</p>
	<p>各種委員会開催状況</p>	<p>年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、 年（開催地： ）、</p>

様式第2 (第12条関係)

	研究集会・会議等開催状況	2019年生物物理&構造生物学 (開催地: Cape Town, 南アフリカ) 2018年アジア生物物理学連合シンポジウム (開催地:メルボルン、AU) 2018年 IUPAB school 年 (開催地:ベニス、Italy) 2018年 Kuo Summer School (開催地: Hangzhou, 中国) 2018年 Biophysics School (開催地: Kotor、モンテネグロ) など多数			
	上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	2018年、アジア生物物理学連合会議 (開催地名:メルボルン、AU)、約20人 (うち代表派遣: 氏名 由良敬、野地博行)  2017年、IUPAB 連合会議 (IB) (開催地: エジンバラ、UK)、約100名 (うち代表派遣: 中村春木、神取秀樹、野地博行)			
	国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去5年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
理事		2017~2021	野地博行	(第24期) 連携	
理事		2014~2017	野地博行	(第23期) 連携	
会長		2008~2014	永山國昭	(第22期) 連携	
		~		( 期) 会員・連携	
		~		( 期) 会員・連携	
		~		( 期) 会員・連携	
出版物	1 定期的 (年4回) 主な出版物名 Biophysical Reviews (Springer) <a href="https://link.springer.com/journal/12551">https://link.springer.com/journal/12551</a> 2 不定期 (年2-4回) 出版物名 IUPAB news letter 不定期 (年1-3回) Encyclopedia of Biophysical Methods				
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://iupab.org/ )					

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB 分科会
	委員長名	原田慶恵 (生物物理学分科会)・野地博行 (IUPAB 分科会)
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) ● 委員会開催: 平成30年2月2日、平成30年8月31日、令和元年5月29日、令和2年3月23日 ● 公開シンポジウム「新たな発見をもたらす科学における予知・予測」平成30年8月31日

